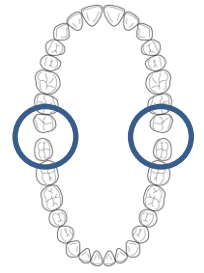
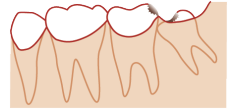


おやしらず(智歯)抜歯の説明と同意書

「おやしらず」とは、歯並びの一番奥にはえてくる永久歯のことです。「おやしらず」がはえてくる時期は10代後半から20代前半です。しかし、初めから「おやしらず」がない方、上下左右の計4本が揃っていない方など個人差があります。また、人によって「おやしらず」の生えてくるスペースが不足してしまうケースがあります。



このまま放置していると、**感染を起こす**恐れがあります。**隣の歯にむし歯をつくったり、歯周病**をはじめ様々な問題を起こしやすく、**歯の周辺に炎症・腫れが生じて痛みの原因**となりお口の環境へ悪影響を与えてしまいます。それらの理由から、抜歯が最善の処置となる場合があります。



患者様におきましては今回検査した「おやしらず」は抜歯の適応と考えられます。そこで、抜歯に当たり下記の事項をご理解いただきますようお願い申し上げます。

患者様用
確認欄

- ① 抜歯後腫れ・痛み・出血・口の開け閉めの困難(開口障害)・のどの痛み・違和感・発熱・顔面に内出血が生じるおそれがあります。
- ② 「おやしらず」が下顎骨の中の下顎管(神経・血管)や舌神経に近接しているため、舌のしびれや味覚障害、オトガイ部や舌または下口唇の感覚が鈍くなるおそれがあります。これらの治癒には1年程度要する場合があります。まれに後遺症として症状が残る可能性があります。
- ③ 術後傷口が治るまで1~2週間ほど痛みを伴います。術後の感染が大きい場合は近隣病院口腔外科へ紹介させていただき、入院下での処置が必要になることもあります。
- ④ 残根の可能性があり、その際はそのままにしておくか、後日処置を行う可能性もあります。
- ⑤ 薬剤に対するアレルギー反応が出るおそれがあります。
- ⑥ 術後、おやしらずの一つ手前の歯が冷たいものにしみる(知覚過敏)ことがあります。
- ⑦ 局所麻酔の作用で、極めてまれに気分が悪くなったり、意識が無くなるおそれがあります。

上記のような偶発症が常に起こるというものではありませんが、「おやしらず」の場合には他の歯の抜歯に比べて発現の可能性が高いと報告されています。

私たち医療者は治療に最大限の努力をいたします。近年の医療でも未だ解明されていないことがあります。また、患者様の身体的な個人差など、あらかじめ予測できないこともあります。非常にまれなことです。不測の事態が生じた場合は善処いたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

以上の説明を受け、処置の実施に同意します。

説明日: 20 年 月 日 同意日: 20 年 月 日

患者様
お名前

代理人様
お名前

続柄

抜歯後の諸注意については別途ご案内いたします。

* 代筆署名の場合は代筆者(親権者・保証人など)のお名前もご記入ください。

以下、医師記入欄

歯科医師名

1. 部位 : 右下8 ・ 左下8

2. CT撮影: 有 ・ 無

3. 抜歯前の説明配布: 有 ・ 無



ひがしうら歯科

奈良市小川町5
0742-22-2664